



訃報

水谷伸雄氏 逝去

昭和54年	分子科学研究所	管理局	技術課	装置開発室	文部技官
平成9年	分子科学研究所	技術課	第三技術班	装置開発技術係	機械技術主任
平成10年	同	第二技術班	極端紫外光科学研究係	技術係長	
平成17年	自然科学研究機構	分子科学研究所	技術課一班	機器開発技術係	係長
平成19年	同	技術課	機器開発技術班	機器開発技術係	係長
令和3年	同	技術課	機器開発技術班	機器開発技術係	退職
令和3年	技術推進部	装置開発ユニット			再雇用職員

近藤 聖彦 (技術推進部 装置開発ユニット)

2023年11月13日(月)、出勤時間の8時30分を過ぎて、装置開発室職員の行動予定表(Zaiseiki)が表示されたモニター画面を見ると、水谷さんのステータスは「帰宅」でした。普段であれば当然「在席」となっている時間です。当日休暇を取得される場合、必ず電話連絡があるのですが、この日は何の連絡も有りません。少し心配になりましたが、水谷さんからの連絡を待つことにしました。8時55分頃に装置開発室の受付の電話が鳴った時、水谷さんからの休暇の連絡だろうなと思いました。別の職員が電話を取り対応しましたが、直ぐに私に代わることになりました。電話の主は息子さんとのこと。「どうしたのかなあ」と思った次の瞬間、突然の訃報の知らせでした。しばらく、言葉が出ませんでした。耳を疑い、信じられず、何かの間違いであって欲しいと心から願いましたが、願い叶わず永遠のお別れとなってしまいました。水谷さんは11月10日(金)に休暇を取得されていたので、その前日に装置開発室・機械グループの活動方針を相談したのが水谷さんとの最後の会話となってしまいました。亡くなる1週間前の11月6日(月)に数名の食事会で、一緒に楽しく談笑できたことがせめてもの心の救いです。

召天式の際、牧師さんが、「水谷さんは、時間に遅れない、好奇心旺盛、用意周到、アイデアが豊富、人を助ける、兄弟」と紹介されていました。職場の関係者のみならず、所属されていた教会関係の友人・知人から幅広く頼られ、愛されていたことを改めて知りました。水谷さんの多彩な趣味の一つに、写真撮影があります。その腕前は拔群であり、装置開発室の集合写真や記録写真の撮影にとどまらず、他部署からも引っ張りだこで、所内行事ではいつも水谷さんが写真撮影をされていました。カメラマンの宿命とは言え、水谷さんご本人の写っている写真がとても少ないのが、今となっては心残りです。

水谷さんはモノづくりにこだわりがありました。愛用の旋盤Leoと静岡製鉄所のフライス盤を自在に操作され、加工に妥協を許さない人でした。さらに、グラインダなどで独創性豊かな工具を自作され、他者には真似のできない実験装置、実験部品などを数多く開発・作製されてきたことが認められ、令和元年に化学技術有功賞を受賞されました。

最近の実験装置の組み立て作業を水谷さんと一緒におこなっていました。その際、水谷さんが設計を担当された機構について重要な勘所を教えてくださいました。これからも水谷さんと一緒に作業をしながら、水谷さんがお持ちの技術と技能を学ばせていただきたかった。その機会が永遠に失われてしまったことは、本当に残念でなりません。

悲しんでばかりいては、水谷さんの装置開発室への思いを引き継げません。装置開発室が分子科学コミュニティにこれまで以上に貢献している姿を見せられるよう室員一同、日々前を向いて進んでいきたいと思ひます。水谷さんの長年のご功績、ご活躍に心から敬意と感謝の意を表し、安らかなる眠りをお祈りいたします。

鈴木 光一（元技術課 技術課長）

水谷さんは所内の同僚や親しい教員の皆さんから「ピカピカ」とあだ名で呼ばれていました。このあだ名は、1980年頃に小学1年生という学習雑誌のテレビCMで「ピカピカの一年せい〜♪」が流行っていて、新人で入ってきた水谷さんに、当時分子研の先輩職員の岡田則夫氏（現 国立天文台）が「おーい、ピカピカ！」と呼んだのが始まりです。このあだ名は本当によく浸透し、当の本人はどう思っていたか判りませんが、そう呼ばれても笑顔が返ってきて常にいい雰囲気を作り出していました。最近でも多くの分子研OBが年配の水谷さんに親しみを込めて呼んでいました。これがもう聞こえなくなり、ピカピカと言えなくなるのは本当に寂しいことです。ご冥福をお祈りします。

岡田 則夫（国立天文台 特定技術職員）

水谷さんとは40余年の仕事仲間です。彼は汎用工作機械を駆使した精密加工を得意とし、また真空装置作りの要である溶接の腕前も凄かったです。堅実さと拘りの「ものづくり」で装置開発室の初期から鈴木さんらと活躍し続けました。物腰は柔らかくでいつもニコニコと話が弾みました。私が天文台に転勤した時は三鷹まで引越しの手伝いに来てくれて、おまけにレンタカーの4トントラックを岡崎まで運転して返しに行ってくれました。大変頼もしい存在でした。つい最近もアルミ製フランジのO-リング溝の研磨について情報交換をしたばかりでした。突然の訃報に大変驚いています。来世があるなら、また一緒に仕事がしたいと思っています。

吉田 久史（元技術課 電子機器開発技術班長）

水谷さんのあまりにも突然の悲報が届いたのは友人からのメールでした。今でも信じられません。いつも心穏やかにで朗らかな誰からも愛される、また、繊細で実直なものづくりをする人でした。工作の相談事や工作機械の操作方法等、困った時はいつも水谷さんを頼りにしていました。階段を駆け降りて、工場の扉の向こうに水谷さんを見つけた時のほっとした感情をよく覚えています。いつも優しく対応して頂き、ありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。



2008 産総研



2009 旋盤Leoと水谷氏



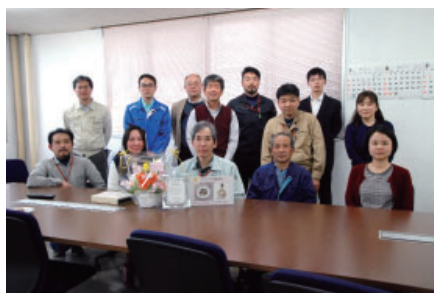
2011 安全講習会



2020



2023



2019 化学技術有功賞の祝賀会



2023.11.6 食事会